

令和3年1月15日(火) No.455



グリットを高め いつも仲間とともに 夢のある学校

# 里中だより

川口市立里中学校  
川口市里621番地  
Tel 048-282-5708  
さわやか相談室 284-1010  
1年202名 2年212名 3年176名  
<http://www.sato-chu.com/>

## 家族（前編）～尊敬する人は誰ですか～

校長 荻上 晃司

あけましておめでとうございます。冬休み中に里中の生徒が命にかかわるような大きな事件、事故に遭遇したという報告もなく1月8日より3学期をスタートすることができました。これも保護者や地域の皆様のおかげと感謝申し上げます。

3年生の皆さんは、私立入試まであと1週間、公立入試まであと6週間となりました。自分がこれまでやってきたことを信じてやり抜く力を発揮することを願っています。受験は生徒・保護者・教職員によるクラス・学年・学校をあげての団体戦でもあります。御家族はもちろん、2年生、1年生、先生方もみんな応援しています。私も校長面談を通して、団体戦に加わり、応援したいと思います。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の第3波の中、中止や規模の縮小を余儀なくされた風物詩が多く、独特の雰囲気あまり感じられない年末年始となりました。政府も国民に「静かな年末年始」と呼びかける中、冬休みには、例年に比べ家族団欒の時間を持てたことと思います。

私は、12月から3年生と2回目の校長面談を行っています。面談の中では、必ず「尊敬する人は誰ですか」と質問しています。多くの生徒の回答に家族が登場してきます。「父です。普段はやさしいのですが、ここぞというときは、私のために叱ってくれるからです。」「母です。仕事で疲れていても私たちの前では弱音を吐かないからです。」「姉です。文武両道を実践し、結果を出しているからです。」といった話を聞いていて、ふと、何年か前に先輩の先生から教えていただいた中学生の保護者が書いた手紙を思い出して、自宅で読み返してみました。今でも心に残っている手紙なので紹介したいと思います。

ちょっとしたことに腹を立て、ドアを思いっきり閉めて、階段をドスンドスンと大きな音を立て、上がっていくあの姿を見ていると、中学生だった頃の自分と重なって、おかしくなることがあります。中学生だった頃、父親に「もう一度言ってみろ!」と怒鳴られ、反抗期真っさかりの私は、同じことを繰り返して言い、死ぬほど怒られたことがあります。その頃の私は、親の言うことがうっとうしくて、やりたいことがたくさんあって、友達とずっと話していたくて、自分のことなんて放っておいてほしい。そんな気持ちだったことを、つい、この間のことのように思い出します。でも、親になった今、どんなにうるさがられても子供を放っておくことなんてできません。私自身が、あの時に叱ってくれた父親に、今は感謝しているから。あなた達だってそう思える日がきますよ。とは言っても、親だって間違えることもあります。そんな時は、きちんと話をしましょう。今、私は大人になったって、反省ばかりの毎日です。あなた達も、いろいろなことで悩むことがあると思います。そんな時、同じ立場で考えてくれる友達は本当に大切です。宝物です。でも、私達、親や大人の存在も忘れないでください。人生の先輩として、少しは役に立つと思うから。

家族との時間を持てる時には、家族との関わりや家族が与えてくれているものについて振り返ってみることも大事だと思います。中学生は、親がどう生きてきたのか、どんな気持ちで今を頑張っているのか、ということを伝えるべき時期にきていると思います。親の言葉からきっと豊かな人生を送るための示唆を自分のものにしていくはずですよ。

保護者や地域の皆様には、本校の教育にいつも変わらぬ御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。令和3年が、皆様にとって充実したよい年になることをお祈りし、今年も教職員が一丸となってより良い学校づくりに努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

(2月号に続く)